

2021年11月16日
株式会社日立製作所

ハイブリッドクラウドソリューション EverFlex from Hitachi を強化し、 中小規模システムとパブリッククラウドとの透過的なデータ連携を実現



注：各種クラウド連携は、ITシステムのクラウド化を計画策定から移行・構築、運用まで支援する日立のプロフェッショナルサービスと組み合わせて提供

ハイブリッドクラウドソリューション EverFlex from Hitachi の概要図

株式会社日立製作所(以下、日立)は、10月5日に提供を開始したハイブリッドクラウドソリューション EverFlex from Hitachi において、企業内に散在する中小規模システムと、パブリッククラウドとの透過的^{*1}なデータ連携を実現し、本日より機能強化したソリューションの提供を開始します。具体的には、導入の容易さを高めた新ミッドレンジストレージ「Hitachi Virtual Storage Platform (以下、VSP) E390」をソリューション基盤に加えます。VSP E390 は、世界中で多くのミッションクリティカルシステムに採用されているストレージ仮想化技術をはじめとする高信頼なデータ管理・運用技術を、中小規模のシステム環境にも低コストで導入・利用することを可能にします。

これにより、データの所在を意識することなく利活用できるハイブリッドクラウド環境を実現し、データドリブンな経営判断による事業拡大や業務効率向上などの加速に貢献します。

*1：複数の機器やソフトウェア、システムなどを連携して動作させる際に、システムなどを特別に意識することなく使用できる状態。

■EverFlex from Hitachi の今回の強化点について

ハイブリッドクラウドソリューション EverFlex from Hitachi は、企業内システムでのクラウド活用、企業内システムからのクラウド移行、企業システムのクラウドネイティブ構築といったクラウド連携において、お客さまに適したデータ連携基盤の容易な導入・利用を支援するソリューションやそれらを支える製品群です。これらにより、お客さまは、ビジネスの状況に最適なハイブリッドクラウドのデータ連携基盤を、柔軟かつ適切なコストで利用できるとともに、企業内システムやクラウドに散在したデータの横断的な管理・運用が可能になります。

今回、以下のソリューションを強化し、提供開始します。

・日立従量課金型データ基盤ソリューション

本ソリューションは、ストレージやサーバー、関連クラウドサービスなどの製品やサービスを、サブスクリプション型から売切型まで、お客さまの要望にあわせた柔軟な利用形態で提供するものです。今回、中小規模システム向けのデータ連携基盤として、新ミッドレンジストレージ VSP E390 を追加します。さまざまな機種ストレージやクラウドストレージを最大 64PiB^{*2}まで仮想的に統合・分割し、用途ごとに割り当てるなどといったことを一元的に管理・運用することが可能です。さらに、VSP ファミリー共通のデータコピー技術を利用し、ネットワークの帯域が変動しやすい環境でも、クラウドへの安定したバックアップ運用が可能です。これらにより、中小規模のシステム環境においても、企業内に散在するさまざまなデータを安全・安心かつ透過的にクラウドにバックアップすることや、クラウド上のアプリケーションから利用することが可能となり、組織全体のデータ連携に貢献します。

*2：ペピバイト。コンピュータの容量や記憶装置の大きさをあらわす情報の単位の一つ。1PiB = 1,024⁵ バイトとして計算した値。

・新ミッドレンジストレージ「VSP E390」の特長

VSP E390 は、世界中で多くのミッションクリティカルシステムを支えている日立のエンタープライズストレージのストレージ基本 OS を最適化し、2U^{*3}の筐体に搭載することで、導入の容易さを高めた、高コストパフォーマンスなミッドレンジストレージです。本ストレージ基本 OS が提供しているデータ管理・運用技術を適用し、安全・安心なデータ連携を実現するハイブリッドクラウド環境を中小規模のシステム環境にも低コストで導入・利用できます。

また、フラッシュストレージへのデータアクセスに最適化された通信プロトコルである NVMe に対応しました。NVMe の採用が進んでいるエンタープライズストレージのデータ処理方式を継承し、信頼性とデータ処理性能の向上を実現しています。さらに、VSP E390 のデータ処理性能に影響を与えることなくフラッシュデバイスの消費電力を低減する機能により、従来システムと比較して環境負荷を低減します。

*3：1U(Unit)は 44.45mm。格納されている機器のサイズを示す単位。

■ソリューション強化の背景

近年、多くの企業では、企業内の業務システムやクラウドに散在するあらゆるデータを横断的に利活用することで、新サービスをタイムリーに市場に提供することが求められています。しかし、機密性の観点から、企業内の業務システムのみ利用に限られるデータも多い一方で、デジタル系のアプリケーションの開発や稼働はクラウドで行われるなど、複数のさまざまな規模の環境でデータが保存・管理されており、横断的な利用が難しくなっています。

■今後の展開

日立は、今後も、安全・安心・柔軟に企業内のシステムとクラウド間のデータ連携を可能にするハイブリッドクラウド向けソリューションを拡充することで、ますます多様化するデータ利活用のニーズに対応し、ビジネス環境の変化に即応できるデータドリブンな経営によるお客さまの企業価値向上に貢献します。

■EverFlex from Hitachi のソリューションや新製品に関する概要

クラウド連携のシナリオ	内容	関連ソリューション・製品	価格(税別)	販売開始時期
クラウド活用	企業内システムでのクラウド活用支援	・【強化】 日立従量課金型データ基盤ソリューション ・【新規追加】 ミッドレンジストレージ Hitachi Virtual Storage Platform E390*4	個別見積 [月額: 34万4千円*5~]	11月16日*6
クラウド移行	企業内システムからのクラウド移行支援			
クラウドネイティブ構築	企業システムのクラウドネイティブ構築支援			

*4：フラッシュドライブとディスクドライブを混在可能な Hitachi Virtual Storage Platform E390H も同時販売開始。

*5：VSP E390 における最小構成の価格です。サポート保守、導入サービスを含みます。

*6：ソリューション内容によって異なるため、個別にお問い合わせください。

■EverFlex from Hitachi のホームページ

<https://www.hitachi.co.jp/products/it/storage-solutions/hybridcloud/>

■日立ストレージソリューションのホームページ

<https://www.hitachi.co.jp/storage/>

■商標注記

- ・EverFlex は、Hitachi Vantara LLC の商標または登録商標です。
- ・その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の登録商標もしくは商標です。

■日立製作所について

日立は、データとテクノロジーで社会インフラを革新する社会イノベーション事業を通じて、人々が幸せで豊かに暮らすことができる持続可能な社会の実現に貢献します。「環境(地球環境の保全)」「レジリエンス(企業の事業継続性や社会インフラの強靭さ)」「安心・安全(一人ひとりの健康で快適な生活)」に注力しています。IT・エネルギー・インダストリー・モビリティ・ライフ・オートモティブシステムの6分野で、OT、IT およびプロダクトを活用する Lumada ソリューションを提供し、お客さまや社会の課題を解決します。2020年度(2021年

3 月期)の連結売上収益は 8 兆 7,291 億円、2021 年 3 月末時点で連結子会社は 871 社、全世界で約 35 万人の従業員を擁しています。

詳しくは、日立のウェブサイト(<https://www.hitachi.co.jp/>)をご覧ください。

■お問い合わせ先

株式会社日立製作所 サービス&プラットフォームビジネスユニット IT プロダクツ統括本部

お問い合わせフォーム：<https://www.hitachi.co.jp/it-pf/inq/NR/>

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
